

令和4年8月1日

越谷保育専門学校
校長 山崎美美夫

令和4年度学校関係者評価委員会報告書の公表について

学校関係者評価委員会による本校の「令和4年度学校関係者評価委員会報告書」を公表します。

なお、本校の学校関係者評価で使用した自己評価報告書の様式は、特定非営利活動法人私立専門学校等評価研究機構が作成した文部科学省ガイドライン準拠版Ver4.0を使用しました。

令和4年8月1日

越谷保育専門学校
校長 山崎芙美夫 様

越谷保育専門学校
学校関係者評価委員会
委員長 曾野 麻紀

令和4年度第1回学校関係者評価委員会報告

令和4年度第1回学校関係者評価委員会において実施した「令和3年度自己評価報告書」に対する評価結果について、下記のとおり報告します。

記

1 学校関係者評価委員会委員名簿

委員長：曾野麻紀委員

池田 祥子	社会福祉法人杉の子保育会 評議員
石田 高幸	学校法人石田学園理事長 社会福祉法人わせだ会わせだっこ中央保育園長
植竹 清文	学校法人植竹学園 理事長
岡 美那子	社会福祉法人まあれ愛恵会 さいたまたいよう保育園長
曾野 麻紀	十文字学園女子大学 人間生活学部幼児教育学科 准教授
豊田 正一	元埼玉県吉川市立中央中学校長、吉川市教育委員会スクールソーシャルワーカー。
中山 望	埼玉県立越谷東高等学校長

(五十音順)

2 学校側事務局

山崎芙美夫	学校法人ワタナベ学園理事長兼越谷保育専門学校長
美入 昌男	越谷保育専門学校副校長兼学科長
古塩 秀明	同 事務長
会田 秀樹	同 教務部学科主任
東海林 孝	同 教務部学科主任
渋谷るり子	同 教務部学科主任
真貝 浩二	同 事務部
相川 怜美	同 専任教員

3 委員会開催状況

- (1) 日 時 令和4年6月23日(木) 午前9時15分～午前11時15分
- (2) 会 場 越谷保育専門学校 201 教室
- (3) 参加委員 上記委員 7名、学校側事務局 8名

4 委員会次第

開会

- (1) 委嘱状交付
- (2) 校長挨拶
- (3) 授業見学
- (4) 議長選出
- (4) 協議
 - ア 学校概要の説明
 - イ 学校関係者評価委員会の進め方の説明
 - ウ 「令和3年度自己評価報告書」に対する評価の実施
 - エ 学校関係者評価委員の総評と意見交換
 - オ その他
- (5) その他
 - ア 次回の開催予定
 - イ その他

閉会

5 学校関係者評価結果

別紙のとおり

令和4年度越谷保育専門学校 第1回学校関係者評価報告書

令和4年8月1日

1 学校概要の説明

本校は幼稚園教諭2種免許状、保育士資格が取得できる教員養成機関であると同時に、指定保育士養成施設であります。

令和4年度より、幼稚園教諭保育士養成学科の定員を100名から80人とし、1学科となっています。

令和4年度第54回入学式は、新入生71名が入学しました。

2 授業見学

科目	(教室)	(授業担当者)
音楽IC弾き語り演習	(4階401教室2A他)	横関前田
教育相談の理論と方法	(3階302教室2B)	小沼美和
子どもの発達と造形表現I	(2階図画工作室1B1-18)	平田智久
子どもの文化と言葉	(2階203教室1A)	山崎英二

3 学校関係者評価の進め方の説明

校長より、学校概況報告で、「自己評価報告書」1学校の理念、2令和3年度の重点目標と達成計画の報告説明が行われた。3評価項目別取り組み状況から協議した。校長からは、基準1、2及び新型コロナウイルス感染防止対応の学生アンケートによる報告が行われた。

令和3年度実施された文部科学省実地視察報告を渋谷学科主任が行った。

さらに、基準3,4,5については会田学科主任から、特に、進路状況の説明が行われた。5-17中途退学及びコロナ感染への対応については、副校長より説明を行った。基準6「教育環境」は、事務長より、基準7「学生の募集と受入れ」に関しては、東海林学科主任より説明された。

4 文部科学省実地視察報告について

令和4年1月25日に実地視察が行われた。事前に文科省より必要書類の依頼があり、主に教員養成についての理念、趣旨等をまず問われた。教育課程ではシラバス、教育実習の指導内容、就職指導、ICT活用等の趣旨で資料の提出を求められた。またその資料に対してメールで説明を求められた。

そして当日に実地視察をZOOMにより、文科省、実地視察委員3名、指導大学、本校6局のネットワークで開催された。事前に提出した資料をもとに質問があり、オンラインで施設見学を行い細かいところを見ながらリアルタイムで指導があり、全体的な講評は、概ね良好であった。

教務担当としては、教育課程について細かな指導がありました。保育内容の指導法に関する科目についての指摘事項でした。内容としては、情報機器、ICTの活用が含まれてない、指導案の作成に関する内容が、シラバス上含まれていないように見受けられるが、「どのように実施されているか」と質問があった。指摘を受け、担当教員に確認をしたところ、実施していることの確認ができた。しかし、最終的にシラバスにその旨が明確に記載されていないことにより、誤

解を招くため、明記をするよう指導があった。

特別支援保育については、自立支援の内容がシラバス上に記載がないことの指摘事項があった。これに関しても授業内容では扱っていることが確認できた。これらは平成31年の再課程認定の際のシラバスは認定されたが、再度見比べたら、その当時には記載があったキーワードが、毎年少しずつ教員が手直し中で重要なキーワードが省けてしまったと考えられる。指定を受けたシラバスの内容は、コアカリキュラムに則り作成しているため、逸脱いないように、特に重要になるコアカリキュラムのキーワードから漏れないようチェックをしていく必要がある。

本校では1年生の9月に教育実習が実施しているが、教育の基礎的理解に関する科目はなく、保育教職論の科目が1年生の後期に開講している。

教育実習では、保育者の職務や役割を知ることが目標のひとつに掲げているが、保育教職論の授業で、保育者の職務や役割を扱う科目が後期になっていることと、教育実習の後に学ぶことの指摘内容でした。教育実習前に実施すべき内容の指導があり、今後適切に対応する。

1月に指摘を受けて、令和4年度は既に時間割等カリキュラムを組んでいたため、今年度の改善は難しかったことが現状です。保育者の職務や役割を知り、今年度は実習体験を再開でき、補填ができる。

教員の組織、人数はもちろん満たしているが、保育内容の指導法に関する教員が多く、教育の基礎的理解に関する科目の担当が、バランス的に偏っている。学校として検討すると回答した。

教育実習の取組状況も、概ね良好の評価であった。教育指導は本校の強み。今回の実地視察の資料を作成していくなかで、大学や短大は、大きな学部、学科のなかで、一部の学生が教員免許を取得するなかで、本校は、全員が取得する全学体制が整っていることが、やはり本校専門学校の強みです。

「教職を志望する学生にはどのような指導をしていますか」という質問に、本校ではすべての学生に対して、すべての教員組織での指導が教職取得を目的とした指導に繋がることを再確認できた。これは、本校の強みになると改めて感じた。

5 「令和3年度自己評価報告書」に対する評価等の実施

- | | |
|-----------------------|-----------|
| (1) 1 学校の理念、教育目標 | ・特に指摘事項なし |
| (2) 2 本年度の重点目標と達成計画 | ・特に指摘事項なし |
| (3) 基準1 教育理念・目的・育成人材像 | ・特に指摘事項なし |
| (4) 基準2 学校運営 | ・特に指摘事項なし |
| (5) 基準3 教育活動 | ・特に指摘事項なし |

3-9 教育方法・評価等（授業見学の感想等）

(委員)今日の授業見学は、授業担当教員の発問の工夫や声掛けなど、非常にきめ細かくご指導されている様子、またそれに対して学生も意欲的、積極的に授業に参加する様子を拝見できた。またピアノ室、401教室のメモ台つきチェア、廊下の掲示物など、学ぶ環境を整えていることで様々な配慮がされている。

(委員)今日は、学校要覧を拝見して、学校は色々なメッセージが校歌から伝わる。校歌を見ると、歌詞は学生が作詞している。この学校は学生が非常に愛校心をもって通っていると感じました。

学校は、学生が一番大切です。その学生を育てている教員、学生にとって最大の教育環境は教師自身だと言います。学校、教育委員会での経験から、授業がとても良かったと思いました。

『音楽』のピアノの授業は、前から見ると良い。学生の目線を見ると非常に真面目で、多分初めての学生もいるかと思えます。真面目さがぴかっと出ていた。

『造形』の授業。60 kgの粘土を使って非常に熱心に取り組んでいた。その熱心に取り組む姿勢が色々な能力を発揮することになる。

『言葉』の授業では、「不思議の国のアリス」の内容があった。リラックスした雰囲気の中でも、一瞬目つきが変わる時がある。先生の説明の中でずっと集中する時がある。こういったところからも志をもって入学した学生だと感じた。

『教育相談』の先生は、私も実はスクールカウンセラーをしていますので、同業者の方かと思ったのですが、これから様々な面から学生を支えていただきたい。今後とも校長のリーダーシップのもと、この学校から素晴らしい人材を育成されることを陰ながら祈念させていただきます。

(6) 基準4 学修成果 ・特に指摘事項なし

(7) 基準5 学生支援

5-16 就職等進路【令和4年3月卒業生就職資料】

(学校) 学校要覧21ページを見ると過去3年分のデータが載っている。

県外の幼稚園は、今年の卒業生は茨城、千葉、東京の1都2県でした。今年度の特徴は、認定こども園への就職が増えている。

5-17 中途退学への対応

(学校) 令和3年度の退学者数は8名でした。2年生が2名、1年生が6名です。傾向としては、1年生前期が多く、2年次に進級する際、卒業の際に退学者が増える傾向にあります。

特に令和3年度に関しては前期が4名、後期4名ということでした。また同じクラスからの退学者も多い傾向にありました。理由については進路変更、学生生活不適應、学力不足等でした。

2番目に各年度の経過です。平成30年度が1番多く25名ですが、概ね5パーセントから7パーセントのところで推移している。

平成30年度においても、学校不適應、学力不足、あるいは経済的理由等があげられていました。退学者ゼロを目指し、少なくしたい。

昨年度の取り組みとしては、進路相談やカウンセラー、また家庭の理解に努めた。学生の連絡や自宅への連絡がとれないケースもあった。

また授業ごとに欠席回数を教員が確認している。必要に応じて保護者に連絡し、欠席が続くことのないように指導している。

多くの学生に対して奨学金等の支援手続き指導も行っている。1年次には学生一人一人と個人面談を実施している。引き続き丁寧な関わりを続

けていく。

(委員)令和 3 年度の退学者の中の同じクラス 5 名の退学者は、たまたま偶然なのか、グループの友達関係にあってその関係性等の影響があったのか。

(学校) 友達同士であったと聞いています。同じ気持ちをもった学生が、一人は、進学時の迷いから、特に昨年は、前期 6、7 月頃に集中して退学の意思を伝える学生が多い傾向にあった。実習が始まる際に「私も辞めます」とか「終わってから辞めます」とか、「あの子どもやめちゃったから、私も」と精神的なことも考えられます。

(委員) 中途退学者対策について、学校側が丁寧に取り組んでいる。様々な事情があって、一人ひとりの対応にあたっていると感じた。

(8) 基準 6 教育環境

6-22 施設・設備等

(学校) 令和 3 年度にはプロジェクターを設置しました。新型コロナウイルス感染症対策として、二酸化炭素濃度計を購入し、各教室に設置し換気に努めている。この後、203、204 教室にプロジェクターの設置を予定している。校舎も築 40 年以上経過し、老朽化しており、今後、校舎をどのようにしていくのか検討しながら校舎の改修工事、塗装工事等も進めていく。

6-24 防災・安全管理（新型コロナウイルス感染防止対応について）

(学校) 一昨年から感染症対策の基本方針を作り、毎年見直しを図っている。学生には、健康管理票を配布し、体温や体調を毎日記録させ、毎月末、提出させ、学校で管理する体制をとっている。

また第 3 回目の新型コロナウイルスワクチン接種会場として、本校では 4 月に 22 人が接種したことを報告します。

今年に関しては感染者数が 1 月に 12 人、2 月に 14 人、3 月は 0 でした。4 月に 5 人、5 月に 1 人、6 月に 1 人、合計 33 人の感染者が発生しました。

1 月、2 月につきましては、後期の授業を一時休校措置、また実習等も感染者、濃厚接触等の影響で順次延期するなど、今現在も最後の学生が実習を行っている。感染症対策に取り組みながら教育活動を進めている。

(委員) コロナ感染に関して、結構な学生が感染しているようだが、感染した学生は職域接種を受けていないのか。

(学校) 学生の接種状況は正確に確認できていない。実習先でもワクチン接種状況、PCR 検査の結果などを求められている。受けたか受けていないか全学生に確認していないが、概ね受けたと把握する。

(委員) 私の職場では、同じように職域接種を受け、職員間では一人も感染者は出ていない。子どもが感染して休園したが、職域接種で 18 歳以上は受けられますから、調べておいたほうが良いのではないかと。

(学校) 接種を推奨しますが、強制はできないので、全学生・保護者には案内を出しております。実習先で求められることもあるので、必要に応じた対応をしていく。PCR 検査は、求められれば学校で対応する。

(9) 基準 7 学生の募集と受け入れ

7-25 学生募集活動

(学校) 令和 3 年度の学生募集の報告ですが、コロナ禍により、令和 2 年度

と同じように進学イベントは行わずに、電話による完全予約制の個別相談会を4月からほぼ毎週土日、主に日曜日が多かったですが行った。

個別相談会には、高校3年生、既卒者は、延べ96名参加があった。昨年度、委託訓練生の学生募集も再開し、施設見学会の参加者が12名になった。

その結果、出願は、総合選抜が26名、指定校推薦選抜が35名、推薦が1名、一般選抜で2名、委託訓練生が7名の結果になった。合計で71名が入学した。昨年の取り組みです。

生徒募集に関しましては、今年度5・6月には学校入試説明会を行い、それぞれ参加者の応募が35名34名、実際の参加者が26名32名となった。

それ以外にも日曜日の個別相談会を引き続き行った。多少イベントの方に流れたと感じもあり、6名の参加となった。

今回、今年の入試説明会ではかなり保護者の方が参加された。8割くらいの参加者が保護者と一緒に来校し、恐らく真剣に親子で進路の話をしていると考える。

また本校への入学希望の気持ちを高めていきたい。

(委員) 学生募集は、前年度との対比の資料を作成し、今年は順調なのか、コロナ前の数字もあると順調であるかが分かりやすい。実際このままの状況で80名の定員に達するか心配である。コロナ前の数字と比較はいかがか。

(学校) コロナ禍では、進学説明会等は実施しません。今年度は、形式を変え、以前のオープンキャンパスを5月から実施しました。回数も多く実施している。

参加者の比較は、オープンキャンパスを行った昨年の夏は、70~80名の応募がありました。実際の来場者数は1~2割程度休む傾向にあったので応募者が全員来校するわけではありません。応募自体はかなり多かった。

今年度個別相談会で実施できたのは14名弱。何とかこの数字を伸ばしていきたい。今年度7月に体験授業が含まれるオープンキャンパスを実施しますので、参加者はもちろん、個別相談の誘導に力をいれていく。

昨年の延べ人数と同じように80名に近づける。

(委員) 過去のデータよりも、今年度の計画が、我々が特に知りたい。今年は、具体的にこう取り組むという、去年に比べて落ち込んでいるから、こんな対策をしているなど、今年度の計画的な取り組みを知りたい。

(委員) 中途退学の資料から、やはり生活保護家庭の学生の入学はありますか。

その支援体制はいかがですか。

(学校) 支援体制は、給付型の奨学金、修学資金の手続きの説明等を行っているが、学校から独自に金銭的な支援をすとかそういうことは行っていない。

しかし学費の納入に関しては、手続きをしたうえで分納を認めている。

これは生活保護の対象者でなくてもという支援内容になるが、学校としては、このように対応をしている。

(学校) 生活保護の家庭の学生も、保育者を目指している方もいます。

そういったときに夢や希望を与えられればと思ってお聞きしました。

(学校) 埼玉県修学資金を受けることで、2年間で160万円の支援を受ける

- ことができる。ただし卒業後 5 年間埼玉県保育園に勤務することが条件。
- (委員) その条件が厳しいと、聞いているが、誰でももらえるわけでないし、その志だとか、審査等のハードルが気になるようです。
- (学校) 近年驚いていることは、児童養護施設を卒業してくる学生も 1 名、2 名と増加傾向にある。その学生たちは施設で働きたいと志が高いことが多い。家庭環境がとても複雑になってきた。保護者の環境が、昔とは変わってきている。どこまで入り込んで指導するか、見極めがすごく難しい。
- (委員) 過去に不登校の経験がある学生でも、保育者を希望することも増えている。高校を卒業しないと本校への入学は難しい。
- (委員) 大学もそのような学生が増えています。通信制の高校に編入して、通信制の高校を経て入学する学生が幼児教育学科もかなり増えている。
- (学校) 学校を見に来た学生の 8 割が入学できたら生徒募集は成功したと考える。全体の人数が、本校を何人入学したのか。この学校説明会等を通して、入学者が増えたか。まずは学校に来て欲しい。学校間に格差があるコロナ対策も問題視している。様々な状況も考慮し、募集の対策を考えていく。募集状況のデータの必要性を感じている。今後の課題としたい。

- | | |
|----------------------|-----------|
| (10) 基準 8 財務 | ・特に指摘事項なし |
| (11) 基準 9 法令等の遵守 | ・特に指摘事項なし |
| (12) 基準 10 社会貢献・地域貢献 | ・特に指摘事項なし |

- 6 閉会 協議誠にありがとうございました。協議でのご意見、ご提案、ご提言を今後の学校運営に活かします。次回は 11 月中旬に実施します。